

2021/9/9

(うと Q 世話し お店再開理由のご説明)

副題：金看板「ニューノーマル」の「ニュー」取外しの顛末

暫く前の記事で

「先を見据えたニューノーマルが見つからないとお店を再開しても、同じ事の繰り返しの
しかならない」

と言ったような主旨のことを書き、

前日最後の記事では

「照る日、曇る日、雨降る日と日々変化し、一寸先で何が起こるか分からないのが常態（ノ
ーマル）」

だと言うような主旨のことを書きました。

いつの間にか「ニュー」を消しておりました。

そんな中で

「新しい指針が見つかった訳でもないのに何でお店を再開したの？」

当然そういう質問が帰って来るであろう事は予想しておりました。

それでお店を開けた理由を現時点での視点でしか有りませんが、それを承知の上で少しご
説明申し上げます。

まず自分はこんな事を考えました。

コロナ禍前と今とで何が変わったか？

今とコロナ禍以降で何が変わりそうか？

その前にまず、かなり以前から思っていたのが

「問題やリスクというのは常に存在する。成功というのはそのうちの一つがその時点でク
リアー出来ただけで、その他同時進行しているリスクや問題が消えた訳ではない。成功は時
としてその認識を自らの酔いで忘れさせてしまうので、却って成功は失敗の母にもなり易
い」

そう思っていた上で第一番目の問いに対してはどうか？

「そう思っていたのは今考えれば人間界内の話でしかなかった。視野が狭かった。

では、視野を広くするにはどうしたらいいか？

人間を生物、種の一つに過ぎないと見た方が正しそうだ」

と言う認識が変わった。

では第二番目の問いに対してはどうか。

「上記同様に、視野を広げてみればコロナ禍が明けたからと言って特段のニューノーマル
と言う様な何かがある訳ではなさそうだ。

格言を用いて言えば

「何が起きるか分からないのが世の中だ」

それが常態（ノーマル）

その言に従えば「新常态（ニューノーマル）」と名付けたそれは「繰り返し常日頃、毎回起こるリスクや問題を超越するための方策」の内の一にしか過ぎない。

リスクや問題の元になる未知、未体験の突然の発生、即ち「変化」こそが、変わらぬ「実相」真の「常態」

とすれば「新たな常態」というのは常時生起の「変化」の事で何も目新しいものではない。

昨今話題の DX やテレワークにせよ変化の One of them.

なので、以降は殊更「ニューノーマル、ニューノーマル」と言わない方が妥当の様なきがしてきた。

「すわ大問題発生」に対して「問題常在」

「人類は万物の長」に対して「人類とて一生物」

「声高な新常态」に対しては「騒ぐことなく淡々と」

以上をスルーして纏めると

「ああ今迄、全て丸ごと勘違い」

それが「我々の今」の様なきが致します。

であるなら日々淡々この「勘違いを逐一修正」していけばいいだけの話なので、わざわざ大袈裟に「ニューノーマルという金看板」を掲げなくても

「お店を再開していいんでないの？」

と思い、再開するに至った次第で御座います。